

平塚市自殺対策計画における12事業 進捗・評価一覧(令和6年12月末時点)

資料2

番号	リーディングプランの事業番号	事業名 (リーディングプラン別冊掲載頁)	担当課	活動指標 (どのような取組をどれくらい行うのか等の事業活動の内容や量を示し、事業ごとの進捗管理を行う)	実績値・進捗状況				目標値	実績値・進捗状況	目標値	成績指標 (事業を行った結果、どのような効果をどれだけ上げることができるのか等の成果を示し、施策ごとの評価を行う)	単位	実績値・進捗状況				目標値	実績値・進捗状況	目標値	施策の推進に向けた主な成果	施策を推進する上での「課題」	課題解決を図るための「取組方針」					
					計画策定期	R6年度			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		R8年度	R6年度			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度							
						実績値	実績値・進捗状況	実績値・進捗状況							実績値	実績値・進捗状況	実績値・進捗状況											
1	1-(1)-⑧	★ゲートキーパーの積極的養成 (P.7)	福祉総務課	ゲートキーパー養成者数(累計)	人	3874	4165	順調に進捗	-	-	4600	-	-	5000	ゲートキーパーの養成者数(累計)	人	3,874	4165	順調に進捗	-	-	4,600	-	-	5,000	ゲートキーパー研修を実施し、自殺の可能性の高い人に気づき、適切な支援に繋げられるようにした。 【実施済み】R6年12月末時点 ①保健福祉研修 43人 ②新採用職員等 25人 ③福祉部インターナシップ実習生 2人 ④福祉事務所実習生 3人 ⑤福祉系専門学校学生 25人 ⑥自殺対策担当者(JSCP e-learning) 18人 【実施予定】 ⑥精神保健福祉ボランティア ⑦障害者支援施設職員	本市で自殺が多いと示されている「勤務・経営者・生活困窮者」の身近な人や支援者に向けた研修の周知が十分とは言えない。	自殺対策会議や庁内関係課等のネットワークを生かし、ゲートキーパー研修について積極的に周知し、悩みを抱える人を支えられる人材を増やす。
2	1-(2)-⑩	自死遺族等への支援の推進 (P.16)	福祉総務課	わかちあいの会 実施回数	回	6	5	順調に進捗	-	-	6	-	-	6	自死遺族の集い参加後、前向きな感想を得られた割合	%	94	93	順調に進捗	-	-	94	-	-	94	「わかちあいの会(自死遺族の集い)を開催することにより、自死遺族等が安心して自分の気持ちを語り、分からうための環境づくりを行った。 【開催日・参加者数】R6年12月末時点 ①R6年4月16日 5人 R6年6月4日 5人 R6年8月6日 3人 R6年10月1日 7人 R6年12月3日 8人 【開催予定】 R7年2月4日	自死遺族等の置かれている立場や心情について、市民や庁内職員等の理解を深めるための取組はできていない。 「わかちあいの会のアシリテーターの役割を担える自死遺族の人材不足により、安心して参加できる会を継続できるかどうかが懸念される。	わかちあいの会の運営スタッフである遺族や県の職員等とともに、安定したアシリテーターの体制づくりについて引き続き検討していく。 ゲートキーパー養成研修や庁内研修等で、自死遺族等についての理解を深めていく。
3	1-(2)-⑪	★生き方・命の大切さを学ぶ機会の提供 (P.17)	福祉総務課	中学生を対象とした講演会実施校	校	3	1	順調に進捗	-	-	5	-	-	5	生き方・命の大切さを学ぶ講演会の受講後、「前向きな気持ちになれた」と回答した生徒の割合	%	-	84	順調に進捗	-	-	65	-	-	70	中学生を対象とした講演会を実施することにより、中学生が自尊心を大切にし、困難等に直面した時の対処法を身に付けられる機会を提供した。 【実施済み】R6年12月末時点 ①山城中学校 「人生の意味を見失ってからが勝負～大谷翔平に学ぶセカンドチャンスのつかみ方～」 講師・編集・ライター 全学年生徒 398人受講 【実施予定】 R7年2月 ②旭陵中学校、③土沢中学校 R7年3月 ④横内中学校、⑤大洋中学校	中学校ごとに講師の選定を行っているため、中学校で求められている講演内容に近づけることができる一方、受講内容が中学校ごとに異なる。	教育関係部署との調整を図り、より自殺対策の視点を取り入れた内容の講演会にすることで、困難に直面した時の対処方法を今以上に生徒に身に付けてもらおるようにする。
4	1-(2)-⑫	★「SOSの出し方に関する教育」の推進 (P.17)	教育指導課	小中学校の授業等での実施率	%	100	100	順調に進捗	-	-	100	-	-	100	(成果目標の設定は無し)										「SOSの出し方に関する教育」を進めるにあたり、学校によつては、児童生徒への周知の機会が限られている。	学級活動や保健体育(保健分野)の学習の際や相談窓口を配付する際等、様々な機会を捉え、本事業の周知を図る等、取組を推進する。		
5	1-(3)-⑬	読書活動を通じた自殺対策の推進 (P.23)	福祉総務課	「命の大切さ、尊さ」をテーマとした読み聞かせを実施した中学校区の割合	%	80	0	遅れている	-	-	90	-	-	100	「命の大切さ、尊さ」をテーマとした読み聞かせを実施した中学校区の割合	%	80	0	遅れている	-	-	90	-	-	100	次の地域活動団体等に対し、こころと命のサポート事業(読書活動を通じた自殺対策の推進)の説明、「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用について働きかけることで、「命の大切さ、尊さ」を学ぶ機会を提供了。 ・各小中学校司書教諭(司書教諭打ち合わせ会)年1回 ・各小中学校学校司書(学校司書説明会)年1回 ・各中学校区子ども読書活動推進協議会代表者会議年1回 「いのちの尊さをつたえる本」の読み聞かせ実施状況 R6年12月末時点で実施報告 無し	読書活動を推進する主体は、各小中学校、各中学校区子ども読書活動推進協議会であるため、福祉総務課が読書活動自体を推進することは難しい。	引き続き、地域活動団体等に対し、事業説明、「いのちの尊さをつたえる本」等のリストの活用について働きかけることで、「命の大切さ、尊さ」を学ぶ機会を提供を継続する。
6	2-(1)-⑯	事例検討を通じたネットワーク体制の強化 (P.32)	福祉総務課	事例検討会の実施	-	実施	R7年3月15日実施予定	-	-	実施	-	-	実施	事例検討を通じて、適切な対処について理解が深まった人の割合	%	100	-	-	-	-	100	-	-	100	事例検討会の実施することで、一定以上の技量を備えた対応ができるようにし、関係各課の連携、情報共有を推進します。 【実施予定】 R7年3月13日 講師:東海大学医学部精神科学教授 山本賢司氏 受講者:平塚市自殺対策担当者	平塚市自殺対策会議、平塚市自殺対策庁内会議、平塚市自殺対策担当者会議の相互連携・協働の充実についてはまだ十分とは言えない。	各機関の役割の確認、現状の体制の課題を出し、事例をもとにどのように各機関の体制を生かして協力していくか検討することでのネットワーク体制の強化を図る。	

平塚市自殺対策計画における12事業 進捗・評価一覧(令和6年12月末時点)

資料2

番号	リーディングプランの事業番号	事業名 (リーディングプラン別冊掲載頁)	担当課	活動指標 (どのような取組をどれくらい行うのか等の事業活動の内容や量を示し、事業ごとの進捗管理を行う)	単位	実績値・進捗状況			目標値	実績値・進捗状況		目標値	成績指標 (事業を行った結果、どのような効果をどれだけ上げることができたか等の成果を示し、施設ごとの評価を行う)	単位	実績値・進捗状況			目標値	実績値・進捗状況	目標値	施策の推進に向けた主な成果	施策を推進する上での「課題」	課題解決を図るための「取組方針」			
						計画策定期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計画			R6年度	R7年度	R8年度	R8年度		R10年度						
							実績値	進捗状況	実績値	実績値	進捗状況				実績値	進捗状況	実績値									
7	3-(1)-⑦	多重債務者の相談支援体制の強化 (P.45)	市民課・民間相談	多重債務相談開催数 12回を継続して実施すること	-	多重債務相談開催数 12回を継続して実施すること	9回順調に進捗	-	-	多重債務相談開催数 12回を継続して実施すること	-	-	多重債務相談開催数 12回を継続して実施すること									多重債務相談開催数 9回を継続して実施した。	特になし。			
8	3-(1)-⑧	青少年の相談支援体制の強化 (P.46)	青少年課	青少年相談室の開室、相談窓口の案内チラシの配布	-	青少年相談室の開室、相談窓口の案内チラシの配布	青少年相談室開室日:20日 案内チラシ配布数:56,640枚 ※自殺予防週間のある9月における実績値	順調に進捗	-	-	青少年相談室の開室、相談窓口の案内チラシの配布	-	-	青少年相談室の開室、相談窓口の案内チラシの配布								令和6年10月に、保護者向けのメール相談を開始し、相談体制を強化した。また、自殺予防週間のある9月に配布した啓発チラシには、保護者や青少年の目に留まるよう自殺予防メッセージを盛り込んだ。このチラシを用いて、児童・生徒に近い立場にある市内小・中学校の教職員へ青少年相談室の啓発を行った。	啓発チラシを目にも行政への相談は敷居が高いと感じ、相談に結びつかない場合がある。	啓発チラシやX-HPを見て「相談してみよう」と思ってもらえる内容での効果的な啓発に努める。		
9	3-(1)-⑨	★いのちとくらしの総合相談会の開催 (P.47)	福祉総務課	相談件数	件	22	12回順調に進捗	-	-	(累計)54	-	-	(累計)90									複数分野の専門家・相談員が連携して支援を行う相談会を開催することで、多岐にわたる相談に対応し、次の相談先へ繋ぐ機会を作った。 【実施済み】R6年12月末時点】 ①9月25日(水)夜間開催 相談者5人／予約者5名 ②12月26日(木)日中開催(中止) 相談者0人／予約者0名 【実施予定】 ③R7年3月2日(日)日中開催(予定) 相談6件	開催日、時間帯、周知方法、相談員の選定が相談者数にどのように影響するのか実施してみないと分からぬ。	引き続き、開催方法について様々な設定で実施することで、因りごとを抱えている方がより相談につながる相談体制を整備する。そのために、自殺対策会議を始めとした既存の連携体制の活用を図る。		
10	3-(1)-⑩	★自殺未遂者支援事業等との連携 (P.48)	福祉総務課	自殺未遂者支援事業との連携	-	連携の検討	連携の実施	順調に進捗	-	-	連携の実施	-	-	連携の実施								神奈川県が実施している「自殺未遂者支援事業」は伊勢原市にある東海大学医学部付属病院が実施している事業である。平塚市内の救急医療機関からの情報提供に対して新たに連携体制を整備するか、すでに実践している連携でよいのかの検討については、十分とは言えない。	引き続き平塚保健福祉事務所、消防署、市内の医療機関等と協力することで、自殺未遂者への連携体制や支援について検討していく。			
11	3-(2)-⑫	★教育関係者に対する自殺対策研修の推進 (P.60)	福祉総務課	受講人数(累計)	人	525	647回順調に進捗	-	-	700	-	-	850	「研修受講後、児童生徒に対する自殺予防の知識・理解が深まった」と回答した人の割合	%	-	92回順調に進捗	-	-	90	-	95	教育関係機関の現場等において、悩みを抱える児童生徒からのサインに気づき、適切に受け止め、対応できる教職員等を養成する研修を実施し、児童生徒の自殺未遂者を推進した。 (教育指導課と共に、教頭研究会の時間内で開催) R6年11月14日実施 「自殺予防の基礎知識と対応～児童・生徒への支援について考える～」 講師:武蔵野大学 教授 小高真美氏 受講者: 市立小学校及び中学校の教頭 35人 教育指導課職員 6人 平塚市自殺対策担当者 18人	教育関係者への研修の時間を増やすことは難しく、現状では受講者が教頭に限られており、児童生徒に対応する教職員等全てに対して実施できていない。	既に行われている教職員向けの研修等や「生き方・命の大切さを学ぶ講演会」との連動を検討し、研修内容を充実を図る。	
12	3-(3)-⑬	★自殺対策に関する周知啓発の強化 (P.70)	福祉総務課	9月の自殺予防週間と3月の自殺対策強化月間に合わせた、パネル展等の実施		9月の自殺予防週間と3月の自殺対策強化月間に合わせた、パネル展等の実施	9月の自殺予防週間に合わせた、パネル展等の実施	順調に進捗	-	-	9月の自殺予防週間に合わせた、パネル展等の実施	-	-	9月の自殺予防週間に合わせた、パネル展等の実施			身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、適切な対処について知識がある人の割合	%	63.8(R10年度の市民意識調査で確認する)	-	-	-	67	次の方法で周知啓発することで、困りごとを抱えた市民が相談窓口等につながるようにした。 【実施】 ①相談窓口案内リーフレット「気づいてくださいこころのサイン」 関係機関等に配付、研修・相談会等で活用 ②9月の自殺予防週間 県庁同庁舎でのパネル展の実施、ごみ収集車のマグネットで掲示、図書館での「ことと命のサポート」のための展示コーナー設置等 ③ラジオ(FM湘南ナバサ)での周知	相談窓口の周知だけでなく適切な対処方法をより多くの市民へ周知する取り組みについては十分とは言えない状況。	引き続き、周知啓発方法について様々な方法で実施することで、困りごとを抱えている方がより相談につながるようにする。そのため、自殺対策会議を始めとした既存の連携体制等から寄せられたアイデアの活用を図る。